青木の風

生きる　創る　そして輝く

学校だより１０月号

令和８年９月３０日
横浜市立青木小学校

「生きる　創る　そして輝く」とは…

校　長　杉山　嘉子

9月は、台風の影響による突然の休校や、インフルエンザの流行に伴う学級閉鎖が相次ぎました。
保護者の皆様には、急な連絡にもかかわらず、ご調整とご理解をいただき、心より感謝申し上げます。

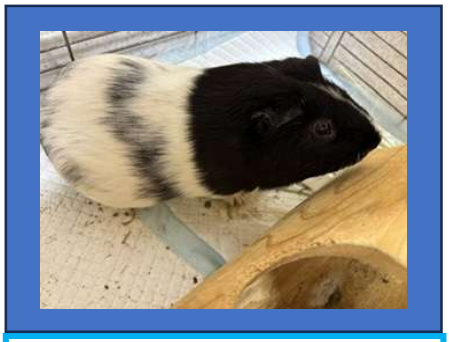
夏休みが明けて1か月、朝の教室から聞こえる演技の音楽、校庭に響く子どもたちの威勢のよい声に、青木小学校もスポーツフェスティバルへの機運が高まってきたことを感じます。

そんな中、校長室には毎日、かわいらしい訪問者がやってきます。トントンとドアを叩き、顔をのぞかせるのは1年生。「失礼します。大切にするので、ミッチーを教室に連れて行っていいですか？」というお願いです。ミッチーは、青木小のみんなが大切にしているモルモットです。「みんなのミッチーだから、一緒に過ごすための約束を考えてきてね。」と伝えると、ミッチーの観察ルールを考え、再びやってきました。子どもたちに「いいですよ」と答えた瞬間、パッと輝く笑顔。ミッチーのかごを乗せた台車に手を添え、そっとおしていく姿には、ミッチーへの優しい思いとワクワクがあふれていました。「ミッチーと一緒に過ごしたい」という思いが、自ら考え行動し、周囲と関わる一歩を生み出したのではないかと思います。

自分の思いをもち、相手を思いやりながら一歩を踏み出す。そして、その瞬間、その子らしい笑顔が輝きます。「生きる、創る、そして輝く」。そのような子どもの姿は、特別な場面ではなく、日々の何気ない学校生活の中にこそ息づいているのだと、温かな気持ちになりました。

最後にもう一つ、子どもたちが自ら動き、「学校を創ろう」とする素敵な姿を紹介します。

本校の教育活動の柱である「プロジェクト活動」は、5・6年生がスポーツフェスティバルと青木フェスティバルに分かれ、主体的に活動を創る取組です。 現在進んでいるスポフェスプロジェクトでは、活動の翌日、7人のプロジェクト長が校長室に集まり、プロジェクト長会議を行っています。15分ほどの会議ですが、活動報告や調整、ゴールの共有や連携を重ねる中で、子どもたちの「自分たちで創る」意識が高まり、活動の厚みが増しています。 主体的に考え行動し(**生きる**)、仲間と力を合わせて形にし(**創る**)、本番に向けて自信を深めていく(**輝く**)――。本校の教育理念「生きる、創る、そして輝く」の言葉通り、自分たちの手で学校を創り出そうとする5・6年生の頼もしい姿に、ぜひご期待ください。



モルモットの「ミッチー」です。

今月もどうぞよろしくお願いいたします。